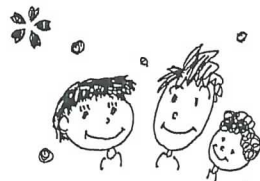


よりそう



第22号

編集責任：水野

(5/21(土)の宿泊：143人、活動：290)

編集担当者 今野・高井・早野・水野・吉田

足湯隊のミラクル

体も心も癒してくれる足湯隊の活動。足湯隊のボランティアさん達が一番心がけているのは被災者の人達への気くばりです。岩手県の人達の地域性もあり、自分だけが大変な思いをしているのではない。もっと大変な思いをしている人がたくさんいる。等の気づかいから、疲れていても、よく眠れていなくても、表に出せない人がたくさんいるようです。

足湯隊では、足湯と手のマッサージをしながら、被災者の方々と自然な会話をし、その中でホロッと出てくる本音をできるだけ聞き逃がさないこと。先日足湯を体験した被災者の方が大工道具を全て流されてしまい。買い揃えには30万程かかってしまう。大工道具があれば、家を建てられるのに…。と何気なく出てきた言葉から、まごころネットに相談したところ、大工道具を寄贈したい人がいて、欲しいと言っていた被災者の方へ届けられる運びになったそうです。足湯隊の活動の中から、そんな素敵なミラクルが起りました。

～お知らせ～

- * 朝6時前の目覚しはダメ!!
- * 南出入り口給湯器は、夜10時以降電源をOFFにする。
- * 5/22(日)夜8時から会議室でリポート山中さんコンサート。
- * 5/22(日)ボランティアミーティングの後チャリティーCDの録音。

100トンと移動

津波で浸水した家屋にはヘドロ混りの泥が床下へ大量に流れ込んだ。床板を外し釘に注意しながら泥をかき出す。泥は別袋にまとめられるが1袋40kg程度になる。これを軽トラックに積み込み集積場へ運ぶ。そこで砂袋を下ろすのだが一日で扱われるのは250袋…約10トンになる。これを10日間続けると合計100トンと移動したボウソウがいた。彼は20日にここを離れた。彼の腕は丸太のように太く鉄腕だった。本職は作曲家たというからまたまたビックリ！ オツカシサマデシタ

思い出のアルバムを家族のもとに

大植の写真整理班は、試行錯誤を続けています。支援先のお宅を訪ねてみる…津波で泥に汚れた写真、変色した写真、互いにくっついて離れない写真がアルバム何十冊分も。一枚一枚、陰干ししては、乾いた泥を払って行く—毎日5、6人でこの繰り返しです。古いモノ写真を見るとき、写っていた画像が塩水で落けているものもあって、心が痛みます。たまにはお父さんのアドバイスをいただこうから、ノウハウを学んでいよう。専門家の方、ご報告。

○編集部員紹介○おなさん初めまして。今日からよりそうご記事を奮筆でもらう屋敷野人といひます。ここへ来て数日経ちますが、まだまだ分からないことだらけです。これから頑張る。有益な情報を届けるようなものを作れるようにしたいと思っているので、これからぜひ目を通してください。

*5/22(日)ボランティアミーティングはPM5:30～@体育館

5/22(日) 天気 雨のち曇り

気温 14～17℃

降水確率 10～80%